

I-1 事業の概要

事務事業名	コミュニティセンター資料展示施設運営			所管局部課等	文化市民局市民生活部人権文化推進課	
ホーム・シア・ア・レス				(連絡先)	075-366-0322	
				(評価票作成者)	人権文化推進課長 川端昌和	
21決算額 (千円)	22予算額 (千円)	今後の方向性 (検討中)		23予算額 (千円)	目標達成度評価	
16,027	16,027			-	指標： 来館者数	
業務運営方法	☐ 直営	委託(補助)先の名称、委託(補助)の内容 (名称) (内容) 資料展示業務及び該当地区に関する歴史的資料の調査、収集業務を委託している。		かなり悪い 悪い 普通 良い かなり 0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100% 110% 120% H19年度 H20年度 H21年度		
	☒ 部分委託					
	☐ 部分補助等					
	☐ 全部委託					
	☐ 全部補助等					
実施根拠 (法令、条例、規則、要綱等)	人権教育及び人権啓発の推進に関する法律 第5条			事務事業の性格	☐ 義務的事業 ☒ 任意的事業	
				類型	3 イベント・講座・普及啓発	
開始時期	平成 6 年度	終了(予定)時期	平成 年度	会計区分	☒ 一般会計 ☐ 特別会計	

事業概要	対象	(誰を、何を) 市民
	活 動 容	(どのような手段で) 楽只コミュニティセンター資料展示施設(ツラッティ千本)及び崇仁コミュニティセンター資料展示施設(柳原銀行記念資料館)において、同和問題や地域における街づくりなどに係る歴史的資料の展示を行う。
	目 的	(どのような状態にしたいのか) 市民に同和問題をはじめとする様々な人権問題について正しく理解・認識してもらうことにより、日々の暮らしの中に人権を大切にし、尊重し合う習慣が根付いた人権文化の構築を目指す。

I-2 投入量

12 収入			H19年度決算	H20年度決算	H21年度決算	H22年度予算	H23年度予算	
年間経費等推移 (千円)	No.	区分						
	①	事業費	(千円)	7,169	6,907	16,027	16,027	
		需用費(リーフレット印刷費等)		749	510			
		備品購入費(展示用備品購入費)		243				
		その他		166	97			
	①'	委託料(運営委託料等)		6,011	6,300	16,027	16,027	
	②	委託料が事業費に占める割合(①'÷①)	(%)	83.8%	91.2%	100.0%	100.0%	
	③	人件費(23年度は見込)	(千円)	27,508	26,639	4,187	4,071	
		職員(課長級)	(人)	0.22	0.23	0.08	0.07	
		職員(課長補佐級、係長級)	(人)	0.71	0.66	0.15	0.15	
		職員(係員)	(人)	1.20	1.20	0.20	0.20	
		嘱託職員等人件費	(千円)	6,724	6,646			
	④	年間経費(①+③)	(千円)	34,677	33,546	20,214	20,098	
	⑤	特定財源(市税等の一般財源以外)	(千円)					
		国庫・府支出金	(千円)					
受益者負担分(使用料、手数料等)		(千円)						
その他()		(千円)						
⑥	京都市年間負担経費(④-⑤)	(千円)	34,677	33,546	20,214	20,098		
⑦	受益者負担率(受益者負担分÷④)	(%)	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%		

平成22年度
(平成21年度分)

Ⅱ 評価結果

事業名 コミュニティセンター資料展示
施設運営

Ⅱ-2 業績評価(Ⅱ-1 市民と行政の役割分担評価は「通常評価」のため省略)

A 目標達成度		指標名	区分	単位	H19年度	H20年度	H21年度	H22年度	H23年度	
指標1	来館者数	目標値 …①	人		7,250	7,250	7,250	7,250		
		実績値 …②	人		6,241	6,821	6,453			
		目標達成度 (②÷①)	%		86.1%	94.1%	89.0%			
指標の種類		増加することが良いとされる指標		評価	良い	良い	良い			
指標2		目標値 …①								
		実績値 …②								
		目標達成度 (②÷①)	%							
指標の種類				評価						
					総合評価					
指標の選択理由					目標値設定の考え方					
指標1	来館者に対して、どの程度の啓発効果があったかという判断は来館者の内面に拠るところが大いため、客観的に判断することが難しい。このため、年間来館者数を指標とすることにより、事業を客観的に評価できると考えられるため。				本事業の目的達成のためには、より多くの市民が施設を訪れることが望ましいと考えられるため、過去の最大実績値(平成14年度)を目標値とする。					
指標変更の有無	☐ 有 ☒ 無	指標名			適用年度			単位		
指標2										
指標変更の有無	☐ 有 ☒ 無	指標名			適用年度			単位		
分析	<実績値の変動理由等> 特別展、企画展開館にあたって他機関と連携し、また広報活動も充実を図ったが、年間の来館者数は減少した。ただし大幅な減少ではないため、今後は展示内容の見直しや、広報活動による周知などに努め、来館者数の増加を目指す。									
B 効率性	No.	区分	単位	H19年度	H20年度	H21年度				
	①	来館者数			4,720	6,241	6,453			
	②	年間経費(事業費及び人件費の合計額)	千円		34,677	33,546	20,214			
	③	単位当たり経費(②÷①×1,000円)	円/単位		7,347	5,375	3,132			
	④	単位当たり経費変動率			-26.8%	-41.7%				
分析	<コスト変動の理由等> 来館者数は減少したが、年間経費についても減少したため、単位当たり経費が減少した。									
C 市民参加度	企画段階	☐ 高 ☒ 中 ☐ 低 ☐ 無	<現状分析、今後の方針等> 両資料展示施設は、展示業務などを地元住民からなるNPOに委託している。							
	実施段階	☐ 高 ☒ 中 ☐ 低 ☐ 無								
	評価段階	☐ 高 ☐ 中 ☒ 低 ☐ 無								
D 市民満足度	<調査の有無> ☒有 ☐無 ☐該当しない		<調査結果、現状分析等> 来館者にアンケート調査を実施しているが、任意のものであり、現状分析に要する十分な回答が得られていない。今後は積極的にアンケート調査を実施し、事業の現状分析や見直しを行っていく。							
	<調査方法> アンケート <調査時期> 随時									
E 環境保全及び環境負荷軽減の要素	☐ 環境 ☐ 関連 ☒ 一般		<現状分析、今後の方針等> 事業の執行過程で、コピー用紙の使用量削減など通常の省エネ・省資源活動に取り組んでいく。また来館に当たって公共交通機関の利用を依頼している。							

平成22年度の実施状況 (平成23年度予算案公表時(平成23年2月)に記載・公表予定)

市会・監査・外部機関等からの指摘

Ⅲ 今後の方向性

(検討中)

(今後の方向性の理由及び具体的な内容)

(「Ⅱ評価結果」を踏まえ、平成23年度予算案公表時(平成23年2月)に記載・公表予定)

ツラッティ 千本

千本地域では、長年にわたって住民の手による同和問題解決への取組が進められてきました。それは地域内にとどまらず、部落解放研究北会(きたけん)という形で、広範な市民ぐるみの取組としても展開されてきました。

ツラッティ千本(楽只コミュニティセンター資料展示施設)は、同和問題をはじめ広く人権問題を学習する場として、1994年(平成6)12月1日に開設し、地域の歴史やきたけんの取組、住民主体のまちづくりの様子などを紹介しています。

江戸時代末から明治の初め、村年寄の元右衛門とその子・益井茂平は、被差別身分の廃止を明治新政府に訴え、また、楽只小学校の前身となる寺子屋の建設や眼病院の開業など、住民の生活向上のために尽力しました。

1922年(大正11)の全国水平社創立に際しては、この地に住む南梅吉が初代委員長に選出され、その居宅に総本部が設置されました。

1950年代後半からは住環境改善事業が本格的に始まり、20年余りで不良住宅の密集状態は解消され、地域は市営住宅の団地に姿を変えました。

いま千本地域では、「千本ふるさと共生自治運営委員会(じうん)」による「共生・永住・自治」をテーマとしたまちづくり運動が展開されています。一方、1972年(昭和47)に「部落問題を市民ぐるみの課題に」を掲げて始まったきたけんは、すでに30回を超え、同和問題やあらゆる差別の問題を考え、人権尊重の行動の輪を広げています。

ツラッティ千本では、地元で取り組まれてきた部落史研究活動の成果、まちづくり運動の歩み、北区・上京区の学校や地域で取り組まれている「人と人、人とまちをつなぐ」活動を展示で紹介するとともに、各種団体の行う学習会や研修会を受け入れています。

- 所在地 〒603-8302 京都市北区紫野花ノ坊町23-1
- 問合せ先 ツラッティ千本 ☎075-493-4539
楽只コミュニティセンター ☎075-492-7320
- ホームページ 京都市情報館(<http://www.city.kyoto.lg.jp/>)から「ツラッティ千本」で検索
- 開館時間 午前10時～午後4時30分
- 閉館日 日曜日、月曜日、祝・休日
年末年始(12月29日～1月3日)
- 入館料 無料
- 交通案内 市バス「千本北大路」バス停下車、すぐ

- ▶地下鉄北大路駅・北大路バスターミナル(青のりば)から約10分。
市バス 1, 101, 102, 204, 205, 206, 北8, M1
- ▶地下鉄・JR二条駅から約15分。阪急大宮駅から約20分。
市バス 6, 46, 206
- ▶京阪出町柳駅から約20分。
市バス 1, 102
- ▶JR京都駅から約40分
市バス 101(B2のりば), 205(B3のりば), 206(A3のりば)



『ツラッティ』の語源

ツラッティ……一緒に連れだつての意。
「連れあつて」の縮約による京ことば。
「家族でツラッティ見学にキトクレーヤス」

—同じです あなたとわたしの大切さ—

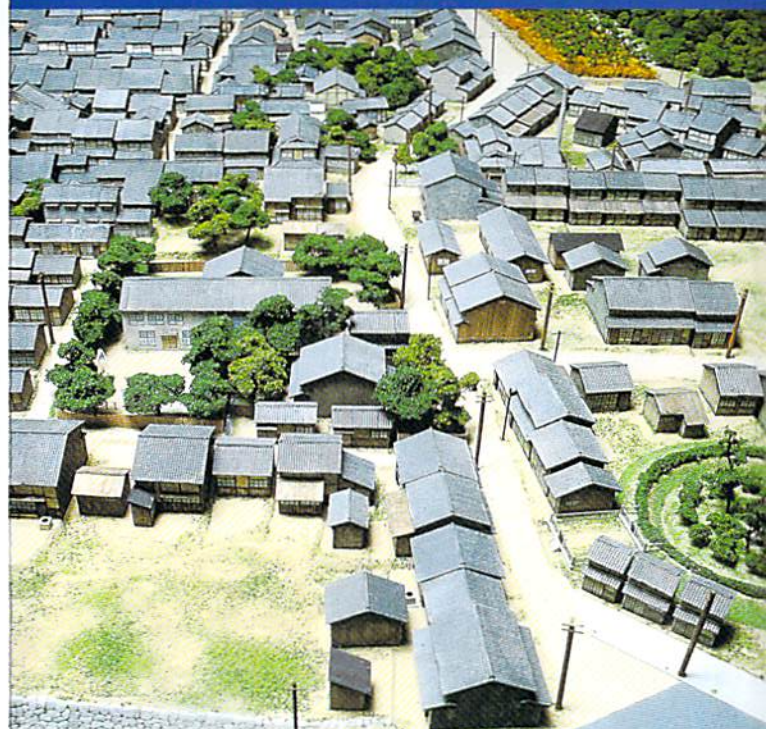
発行：京都市人権文化推進課

京都市印刷物 第140891号

時を超え美しく
ひと輝く 歴史都市・京都

ツラッティ 千本

京都市楽只コミュニティセンター資料展示施設



京都市



ツラッティ 千本

見取図 1階



～京都市の都市整備と同和行政の展開～

第1展示室 千本地域の移り変わり、町並み模型、古地図等



～千本のあゆみⅠ 千本のあけぼのと村の改善事業～

第2展示室 千本地域の歴史年表、洛中洛外図屏風高津本（複製）、益井家資料等



～千本のあゆみⅡ 野口村のくらしと全国水平社～

第3展示室 野口村役場引継文書、南梅吉と全国水平社、民具類等



～「共生・永住・自治」のまちづくりをめざして～

第4展示室 町並み復元模型（1951年当時）、千本あそびマップ、部落解放研究北区集会（きたけん）の資料等



～「千本の赤」～

第5展示室 絵本「千本の赤」原画等

2階



第1研修室（定員30名程度）



第2研修室（定員20名程度）

施設紹介

柳原銀行は、1899年（明治32）、柳原町（崇仁地区）の町長であった明石民蔵ら地元の有志によって同和地区内に設立された唯一の銀行でした。当時、柳原銀行は、差別のために資金を得られなかった町内の皮革業者らに融資をして、産業の育成・振興に大きく貢献したほか、その利子を地元の小学校の運営資金や道路建設資金に当てるなど、自力で差別を撤廃していく模範とされました。

大正期には、山城銀行と改称し、営業を拡大していきましたが、金融恐慌などの影響を受けて、1927年（昭和2）に倒産しました。

その後、建物は商店や借家として使用されましたが、1986年（昭和61）に道路の拡幅工事に伴う建物の取り壊し案が出たことを契機として、地域では、建物をまちづくりのシンボルとする保存運動が盛り上がり、保存に向けた様々な取組が行われました。また、1989年（平成元）に実施した京都市の建物調査において、設計密度の高い明治後期の洋風木造建築物であることが判明し、1994年（平成6）、京都市登録有形文化財に登録されました。

このような中、建築保存に対する地域の熱意と本市の取組とがあいまって、建物を移築、復元することとなり、1997年（平成9）から柳原銀行記念資料館として開館しました。

当館は、地元の方々から寄贈された貴重な資料をはじめ、地域の歴史、文化、生活等にふれる展示を通じて、同和問題への正しい理解と人権意識の普及・高揚を図る啓発施設として多くの皆さんに親しまれています。

- 構造形式 木造2階一部平屋建て屋根寄棟及び切妻造り棧瓦葺
- 建築面積 88.58㎡
- 延床面積 164.50㎡
- （1階） 88.58㎡
- （2階） 75.92㎡
- 軒 高 7.66m
- 建物調査期間 平成6年 7月～平成7年 3月
- 解体工事期間 平成7年 3月～平成7年 8月
- 復元工事期間 平成8年10月～平成9年10月

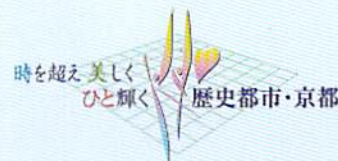
- ◆ 所在地 〒600-8206 京都市下京区下之町6-3
- ◆ 問合せ先 京都市崇仁コミュニティセンター
(☎ 075-371-8220 FAX 371-7708)
- ◆ ホームページ <http://web.kyoto-inet.or.jp/org/yanagin/>
- ◆ 開館時間 午前10時～午後4時30分
- ◆ 閉館日 日曜日、月曜日、祝日・休日
年末年始（12月29日～1月3日）
その他、展示替えにより臨時休館する場合があります。
- ◆ 入館料 無料
- ◆ 交通機関 JR「京都」駅及び地下鉄「京都」駅から徒歩約8分
京阪「七条」駅から徒歩約10分
市バス 南5、17、205
「塩小路高倉」下車

※駐車場はありませんので、公共交通機関をご利用ください。



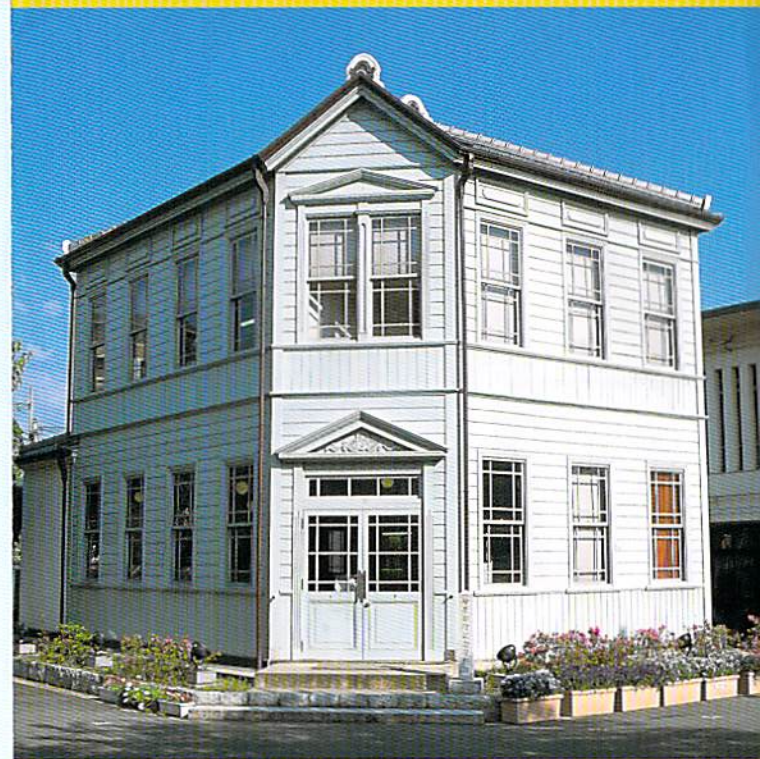
— 同じです あなたとわたしの 大切さ —

発行 京都市人権文化推進課
京都市印刷物 第154010号



柳原銀行記念資料館

京都市崇仁コミュニティセンター資料展示施設



京 都 市

1階

設立者の熱意が伝わる明治期の銀行建築様式が多く残っており、外観とともに創建時(明治40年)の姿を可能な限り忠実に復元しています。



▲1階展示風景 銀行営業室として使われていた創建当時の姿を復元。カウンター、照明は現存していなかったため、同時期の銀行を参考にした。



▲創建時の姿をとどめる格天井。透かし彫りを施した六角形の中心飾りとシャンデリア



夜間ライトアップ風景 ▶



▼金庫室(現在はビデオコーナーとして使用)は後世の増築。扉は同時期の銀行を参考に復元



▲建物の角を切り、その角に玄関部を置く構成は、明治期の金融機関にしばしばみられる。その際角部の強調のため、ペディメント(三角破風飾り)を置くか、屋根に塔を付すのが一般的手法であった。



▲木製サッシの上げ下げ窓と2階窓枠上部に配した長方形のフィールドット・パネル(浮き彫りのある装飾板)



▲1階部分の階段は改変されていたため、2階部分を基に復元

2階

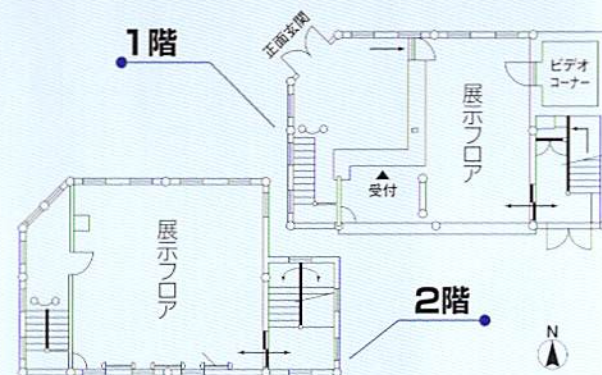


▲2階展示風景



◀当時のままの階段と手すり

建物見取り図



建物の特徴

当建築物は、棟札から明治40年の竣工と判断されます。京都に現存する銀行建築物の中では、明治39年の旧日本銀行京都支店(現 京都文化博物館)が最も古く、これに次ぐものです。

外観は、棧瓦葺き寄棟造り、隅切部は切妻造りで、フィールドット・パネルやペディメントを配した、明治期の銀行建築様式の特徴が現われています。

室内の1階は営業室で、格天井や壁面、階段等の仕様が銀行としてふさわしい格調を演出しています。2階は執務室と考えられ、簡略化した様式になっています。